

云むるをゆくや葉のぬと云羽とまうけくそれなむくといへるふハ

わくづるべー古事傳卷十四青柴垣訓柴云柴垣ハ青葉の柴垣と云

布フ斯シハ字のゆく柴の事や中古の羽を布フ斯シ志婆シバとくといへる

いへる柴と水中にむくやとく魚とくると布斯都氣とくとも

是や拾遺集平兼盛うづけいものさうとけとみもバム

又下卷甕栗宮段の羽は志婆加岐とくとも布斯垣とトド

ものや云く依く唯くひつげのあさとくむくと柴のなれ青黒

ぬるより冠辞よまうけくやとくも元より柴あるより前に

いへるがゆくかの染齒ハやと用ふるなればうくまうけく

よるぬへるもれとあくる塙本は此羽と志の部は入るはいを